

田川会長にインタビュー 「ツーリズムの意義と役割を内外に示す」

第3回を迎え、ジャンプの年として注目が高まる「ツーリズムEXPOジャパン」について、実行委員長を務める田川博己 JATA会長に期待や意義などを聞きました。

重みを増す海外旅行商談会

「ツーリズムEXPOジャパン」も3年目を迎え、ジャンプの年として更なる飛躍が期待されています。2014年の第1回からの歩みをどのように考えていらっしゃるのですか。

田川 訪日旅行は2000万人に迫り大きく環境が変化してきていますが、海外旅行は依然として需要の喚起や創出に苦し



田川博己 JATA 会長

む厳しい状況が続いています。また、国内旅行についても、訪日旅行の拡大とも相俟って、地方創生という文脈の中で「観光」の重要性が語られるようになってきました。2014年の第1回では、「JATA旅博」と日本観光振興協会の「旅フェア日本」を統合し、本化されたイベントの成功が大きなテーマでしたが、同時に「VISIT JAPAN TRAVEL マーケット」と「VISIT JAPAN MICEMART」も開かれ、国内旅行海外旅行訪日旅行を振興する三位一体での展開を実現できました。ステップの年となった第2回では、新たな取り組みとして「ジャパン・ツーリズム・ワード」がスタートしたのに加え

「JAPANNIGHT」や「展示会」「国際観光フォーラム」も新たな意匠や工夫によってパワーアップされる形となり、世界最大級のイベントを実感できるようになったと思います。

——第3回には、どういったことを期待されますか。

田川 海外旅行の復活を図るために、企画力や斡旋力、現

場力、添乗力ということを言ってきたわけですが、今年は、特に、海外旅行の商談会が重みを増してくると思います。30〜40年前の海外旅行黎明期に企画力を磨いていた時代まで立ち返って、もう一度、日本のマーケットを海外に売り込んでいくという意識を持って、旅行会社の皆さんには参加していただきたいと考えています。展示側であるサプライザーの皆さんにも、ツーリズムEXPOジャパンの会場に来れば、ネットでは得られないようなレベルの高い情報入手したり、現地の人と話をしながら旅行の身を充実できるようにしていただきたいとお願ひしています。「経験」や「体験」をキーワードに、ブースも単なる展示ではなくトークショーなどのイベントも通じて、旅行文化を発信できる場所として活用していただけではないと思います。

「2020年」へ向けてスタート

——「国際観光フォーラム」は今年から「ツーリズムEXPOジャパンフォーラム」に名称を改めますが、どういった狙いでしょうか。

田川 ツーリズムEXPOジャパンとして展開する5つの事業の中で、今年の目玉となるのが「ツーリズムEXPOジャパンフォーラム」です。難民やテロの問題、安全・安心の問題などが大きくなってきている中で、ツーリズムの果たすべき役割について議論を深めていくことが出来ればと考えています。アパナビで開催されたWTTCサミットで

米国のクリントン元大統領がツーリズム産業に対して「自ら平和を創り出す努力」を呼びかけましたが、そういうテーマをフォーラムのシンポジウムなどでも、旅行業界の存在意義や旅行会社の役割といったディスカッションにつなげていければと思います。

以前から「旅の力」ということを言ってきましたが、国家の利益に資することを追求するのにも、「ジャンプ」の年を迎えたツーリズムEXPOジャパンの大きな意義の一つであり、それによつて、次のステージに入っていくのだからと考えています。

——ツーリズムEXPOジャパンの主催者として、メッセージをお聞かせください。

田川 8月21日のリオデジャネイロ・オリンピック閉会式で、TOKYOが次期開催地としてコールされたのに続き、9月18日にはパラリンピックの閉会式でもTOKYOがコールされます。世界からの注目を集める東京でツーリズムEXPOジャパンが開催されるわけですから、日本のツーリズム業界にとっては、非常に大きな出来事になります。訪日旅行だけでなく、海外旅行にとつても、改めて、日本というマーケットの存在を強調することができる機会です。今年「2020年」へ向けてのスタートの年でもあり、ツーリズムEXPOジャパンの最初の3年間と次の3年間を結ぶブリッジの年でもありますから、その意義も理解していただいて、ご出展やご参加をお願いできればと思います。